

発行所 環境農業新聞社
編集発行人 成瀬一夫
東京都葛飾区東金町1-41-9
〒125-0041 フランス堂ビル3階
電話 03-3826-5212
FAX 03-3826-5217
年間購読料 3,000円(税・送料込)
郵便振替口座 00150-2-290578

環境農業新聞

メール:ecoagri@pure.ocn.ne.jp

主な記事

- …第4回日本の農業と食シンポジウム…(1面)
○…実績重視のカンファスイ…(2面)
○…オービットエナジー、全国販売に…(3面)
○…地方創生レポート(山本幸三議員)…(6面)

免疫力向上にミネラル豊富な農産物を

第4回日本の農業と食シンポジウム



名古屋で開催したシンポジウム、200名を超える参加者

自然農の重要性説く

6次化も推進

参加者 感動的な講演に大満足

日本豊受自然農

第4回日本の農業と食シンポジウム(日本豊受自然農主催、日本ホメオパシー医学協会共催、GOP愛知協賛、NPO法人元氣農業開発機構後援)4月4日午前10時から名古屋市東区のIMY大会議室で盛大に開催された。今回のテーマは「農業×免疫を高める「食」と病気にならない食、病気になる農業」。シンポジウムは食、農業、免疫、薬草、ホメオパシーの専門家が講演し「食」と「自然農」の重要性が強調された。中でも由井寅子大会会長は「免疫力を高めるためにも食が大事。よい食を提供するには、それを作る農業が重要であり、自家採種の種と化学物質を使わない自然型農業でなければならない」と語っていた。参加者も熱心にメモをとり、真剣な表情で聞き入っていた。(関連記事4、5面に)



由井寅子大会会長

シンポジウムの冒頭、由井寅子大会会長は「農業はつらくない、苦しめない、楽しい」と前置きし、「東日本大震災の時、野菜や水を持って被災地に行った。15分でもなにかあった。何かあっても食べられるもの、飲む物がなければならぬ。その時に農業の重要性を知り、農業生産法人を作り4年になる。静岡県南東部と北海道の洞爺湖農場を作った。その微生物を大事に、私たちに栄養をくれる作物に感謝の気持ちをもって作っている」と語りながら「免疫力を高めるには土壌菌が生きている。作物の側根が生えていることにより、ミネラルが豊富な農産物を食することが重要」と挨拶した。由井大会会長が打ち鳴らす陣太鼓、恒例の大きな地球ボールを回して始



小谷宗司氏

「食の健康問題に対するホメオパシーでの複数の症例を紹介した。比嘉眞佐子さんは電磁波の害で苦しむ女性、シノンマシで苦しむ7歳の男児、アトピー性皮膚炎の子供の症例を詳しく紹介、いずれもレメディと食事や生活習慣の改善を併せ自己治療力を向上させ、現代医学で改善できなかったことを劇的に改善されたことを写真等で説明した。続いて農業生産法人日本豊受自然農南東部の



南出喜久治氏

吉田誠さんが「土づくりから6次産業化まで、南豊受農場の取り組み」と題してDVDを見せながら堆肥づくりや各種野菜、加工食品などを生産している状況を紹介した。豊受自然農場では、今年、静岡農林大学から二人の若者が入社し、自然農を学んでいる。引き続き、農業生産法人日本豊受自然農洞爺湖園の米丸輝久さんから「自家採種、在来種、固定種、自然な種からこだわった洞爺湖農場での取り組み」と題してDVDを通して紹介した。



片野敏和氏

米丸さんは「自家採種を続けることは野菜が本来の力を高める進化が進み、香りが強く味の良いファイトケミカルも多く含む生きる力のある野菜が育っている。育て、採取し、より良い野菜やハーブを作り続けることは命をつなぐ共存が成り立つ。自家採種の多くの種をもつことが、自立できる農場を目指して取り組むこと」と語った。次に東京・世田谷の用



安保 徹氏

培が日本の農業の一翼を担う」と力強く語った。続いて弁護士南出喜久治氏は、色々な紛争の裏に食糧問題が横たわっていることを紹介した。「ジンギスカンのモンゴルのユラリア大陸制覇にしろ、ゲルマン民族の大移動にしても、フランス革命にしても、オイルショックにしても、歴史の上、大きな革命や戦争、混乱の本質的な原因の背景には食糧問題がある」と指摘。



比嘉眞佐子氏

さらに南出氏は「東日本大震災前の3年前から福島県の故佐藤剛男議員と共同で災害に強く様々な食糧問題解決につながる「初(もみ)米備蓄による「食糧自給向上策」の提案と、各家庭がベランダでも野菜などを育てる農業に取り組むことにより、各家庭が1%でも食糧自給率をあげる取り組みを行うことが重要」とした。



吉田 誠氏

屋敷後、JA南東部代表理事組合長である片野敏和氏は「静岡・丹那地域を活性化させる自然型酪農と自然型農業への取り組み」と題して講演した。酪農家が構成員の多くを占める南東部農協が、様々な岐路に立たされたが、苦難を乗り越え今日まで存続してきた歴史を語り、牛たちに手をかけず低価格の乳製品が市場を占める中、牛の食事に含まれる硝酸体窒素にまで気を配り、牛の健康を守る事で乳製品の質を高めブランド化した南豊受農場の取り組みを語り、由井会長の自然農を称え、今後も協力していき考えであることを語っていた。



米丸輝久氏

新潟大学名誉教授の安保徹氏は、自律神経、免疫力、エネルギー生成系のキーワードを使い「免疫力アップの生活と食」について語った。安保氏は、笑いを誘うような語り口で「能力の限界を超えるような忙しさと悩みや鬱気込みまわると病気になるってしまう。日本人は、まじめで責任感の強い人が多いので、この流れ(交感神経緊張)で多くの人が病気になる。生き方を正さないと病気が脱却することはできない。病院と薬では解決できないことが多いことをわかりやすく語った。また、自律神経の働きと免疫力は運動しているため無理しても薬をしなくても免疫力は低下してしまつてくると低体温が病気の多くはミネラル不足から来るとし、その原因として近代農業が土を薬漬けにしてしまったことをあげた。由井会長は日本の農業



本多勝彦氏

を復興すべく豊受自然農の代表として自然に基いた土づくりにこだわりの、土に必要な発酵液や乳酸菌、麹、微生物やハーブなどの力を借りることでフカフカのミネラル豊富な土壌を作ることが成功したことをDVDで紹介した。また由井会長はホメオパシーで改善した症例も紹介。生まれつきのカルシウム不足から骨の障害があり、歩けなかった子供がホメオパシー相談会にかかり一回目のレメディで、自力で歩けるようになった。さらに由井寅子氏は、豊受の6次産業のハーブの酵素作りのエキネシアプロシエクトや無添加化粧品、無添加加工食品をはじめとする商品、オーガニクスレストランのオーブンなどを紹介した。由井寅子氏は、脱原発、TPP反対、そして、過剰な薬の摂り過ぎに、警告を発し、それによる難病や障害者が増えている現状は向も環境や医療不足の不足でなく、ミネラル不足の野菜を食べることがら起る。食の問題を定義し、自然農法の実践が日本を救うと持論を展開していた。